

来週の「売り物記事」はこれ



2019年2月22日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

W杯日本大会に懸ける

ドクター志望の異色ラグーマン・福岡堅樹選手

24日(日)



アジア初のラグビーワールドカップ(W杯)が今年9月に日本で開幕します。躍進が期待される日本代表に欠かせない存在が、福岡堅樹選手(26)です。快足が自慢で、日本が旋風を巻き起こした2015年W杯イングランド大会にも出場しました。

20年の東京五輪後には医師を目指す「文武両道」のラグーマン。その素顔に迫るとともに、W杯への思いを熱く語っていただきました。

筆者は西部報道部運動グループの吉見裕都記者です。



「美しい国」か、それとも「恥ずかしい国」か

夕刊特集ワイド 25日(月)



実るほど頭(こうべ)を垂れる稲穂かな——。そんなことわざを伝えたいと考えてしまうのが安倍晋三首相の言動です。

首相に再登板してからの6年、次々に不祥事や疑惑が持ち上がってきましたが、強引な政治姿勢を崩しません。衆参両院で与党が安定多数を占める中「決める政治」をアピールしてきましたが、ふと疑問に感じます。

首相はかつて「美しい国へ」と題する著書を出しましたが、この国の実態は「恥ずかしい国」なのではないでしょうか。

乾杯！世界のどこかで 歴史香る「独立の味」を生で

くらしナビ面 26日(火)

ブラジルは、サトウキビ生産量世界一の国。そのサトウキビが原料の蒸留酒「カシャッサ(ピンガ)」は、これまで低所得層を中心に愛飲されてきましたが、最近では幅広く浸透しています。

植民地時代、宗主国ポルトガルが課したカシャッサへの重税に市民の反発が強まり、1822年の独立につながりました。

独立のシンボルでもある美酒を巡る物語をお伝えします。

ハマりました 疲れをほぐす電気風呂

くらしナビ面 27日(水)

何の変哲もない、銭湯の一角にあるお風呂。入ってみると、ビリビリとした独特の刺激が疲れた体をほぐしてくれます。これ、浴槽に張った湯に微弱な電気を流す「電気風呂」。

団体職員の辻野憲一さん(39)＝東京都渋谷区、写真＝は電気風呂を求めて銭湯巡りを続けています。訪れたのは300軒以上。「風呂の日」(2月6日)に本を出版した辻野さんのこだわりとは。



小泉進次郎氏に社会保障改革を聞く

医療・福祉面 27日(水)

自民党厚生労働部会長の小泉進次郎氏にインタビューします。テーマは社会保障改革です。

厚労行政をライフワークとする小泉氏は、65歳になったらみんなが引退して年金生活に入る――という固定的な考え方をやめ、個人が自分のライフコースを選べるようにするべきだと訴えています。

厚労行政は年金や医療、介護、子育て、障害者問題など私たちの暮らしに直結する課題ばかりです。人生100年時代にふさわしい厚労行政としてどのような姿を考えているのか、幅広い観点から尋ねます。

ビキニ被ばく 65年 ゴジラに込められた反核の思い

科学面 28日(木)



静岡県焼津市のマグロ漁船「第五福竜丸」が南太平洋ビキニ環礁で実施された米国の水爆実験で被ばくしてから、3月1日で65年になります。

その8カ月後、東宝の映画「ゴジラ」が「水爆大怪獣映画」のうたい文句で封切られ、961万人の観客を動員する大ヒットとなります。ゴジラは水爆で生活環境を奪われた生物として描かれ、最初の脚本では映画の冒頭で第五福竜丸を映すカットが盛り込まれるなど、核兵器への憤りや不安が表現されていました。

今も続く被ばくの実態調査とともに、ゴジラに込められた制作者の思いに迫ります。

統一地方選シリーズ

男女均等の政治へ 「日本版パリテ法」元年

くらしナビ面 28日(木) から

4月に行われる統一地方選を巡り、女性が立候補しようという動きが活発です。できるだけ候補者が男女均等になるよう各政党に努力義務を課した「政治分野における男女共同参画推進法」が昨年5月に施行されたことが、追い風になっているようです。

市制施行以来、女性市議ゼロの市議会に風穴を開けようと挑戦する姿を手始めに、列島各地の現場からお届けします。

企画 「元号と東アジア」

3面など 26日(火) から

元号を巡る歴史を紹介する企画の今回のテーマは「元号と東アジア」です。

古代中国発祥の元号は、現代は日本だけで使われていますが、過去にはベトナムや朝鮮半島でも独自の元号が用いられました。

「独立の象徴」である元号と、東アジアの歴史を振り返ります。また、漢籍ではなく日本の古典を典拠とする「和風元号」を巡る動きも取材しました。

